



とにかく
わってやる



大山崎町健康課長

山岡剛

氏

説明の仕方が実にうまい。そして若々しい。町教委生涯学習課長、経済環境課長を経て今春、健康課長になった。健康増進、保険医療、高齢介護の三つの係を取りまとめる。「少人数の自治体なのでオールラウンドの能力が求められます」。自身も、「できればすべての課を経験したいですね」。仕事に対してどこまでもアクティブだ。

三つの係 連携しやすく

「今の部署の業務は多岐にわたっています。深く勉強することはなかなか難しいのが実情ですが、健康、保険、年金、医療、介護を一つの課で扱っているため、社会保障の全体像がつかみやすく各係の連携がしやすいというメリットはあります」と話す。

「異動して1年目なので、わからないことは各係のリーダーに教えてもらっています。最終的には、自分で理解して対応できるようにになりたいと考えています。それには日々の努力（勉強）が必要ですね」。課員に対しては「忙しいとは思いますが、できるだけ考える時間

をつくってほしい」と話す。「じゃ、職員のために具体的にどんな対策をとっているのかと問われると…。うん、自分の思いだけをぶつけているところがあるかな…。反省点ですね」。自身への評価もなかなか厳しい。

中高校時代は野球部に所属していたが、役場



に就職してからは、”走り”に目覚め、全盛期には月間400⁺を走ったことも。「過去には、マラソン等の大会に数多く出場していました。が、今は生活習慣病予防対策の一環として、健康ジョガー“を楽しんでいます」と笑った。そ

れでも休日を利用し、月間150⁺は走るという。

趣味はダイビング。ダイビング歴は10数年になる。小笠原諸島（父島）や与那国島といった国内はもちろん、パラオやモルディブなど海外にも及ぶ。「海につかるだけで気持ちが良いんです。できれば海の中でジンベエザメと出会いたいですね」。表情が生き生きとした。だが、仕事の関係でここ数年はダイビングに行けていないという。少し寂しげだった。

超高齢社会へ趣味と料理を

超高齢社会を迎え、いろんな事例に接するたびに個人的に思うことがあるという。「早い時期に一つでいいですから趣味を持ってもらえたらいいかなあ。釣りでしたら、針を結ぶという指先の作業で介護予防にもなるでしょう」。

「ああ、それから、もう一つ。男の人も料理がつくれるようになっておいたほうが…。料理教室などに積極的に参加してもらえたらうれしいですね。「団塊の世代」の当方としては、身にしてみるアドバイスだった。